コメ先物試験事業のご提案

（株）東京穀物商品取引所・関西商品取引所

商品先物取引とは、

商品を売り買いする売買契約の一種です。

但し、次のような
特徴があります。

特徴その１

○　半年後や1年後などの未来に、
○　商品を引渡し又は、代金を支払う契約です。

特徴その２

○　契約の履行の仕方が２つあります。

１　実際に商品を引渡し、代金を受け取る方法

２　差額決済（現金決済）による方法

差額決済（現金決済）の仕組みは、後ほど、詳しく説明しますが、

その前に、先物取引の使い方を、見てみましょう。

基本的な使い方

○　生産費やマージンを考えた場合、作ったコメは、1万5千円／60kg以上で売りたいな。

○　でも、いつも秋（10月）にならないといくらで売れるか分からないから不安だ。

コメ農家Aさん

○　そうは言っても、取引先のある卸さんも、自分が将来いくらで売れるか分からないから、事前に値段は決められないだろうな。

○　かといって、自分で、そんな契約をしてくれる卸さんを探すのは大変だ。

コメ農家Aさん

そんなときに、

先物取引役立ちます。

4月

今、10月に引渡し約束のコメが、15，000円／60kgくらいで取引されてますよ。

取引所では、毎日、多くの取引が行われており、その取引価格は瞬時に公表されています。

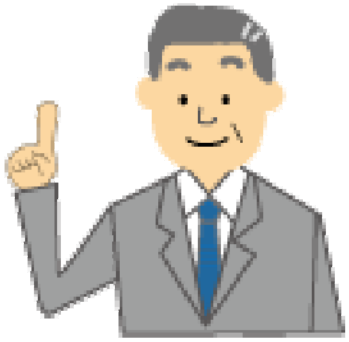
○　この先、コメが上がるか下がるか分からないから、今のうちに、取引所で15，000円／60kgで売る約束をしておこう。

コメ農家Aさん

4月

その値段で買いますよ。

10月に引き渡すコメを、15，000円／60kgで売りたい。



卸売業者さん

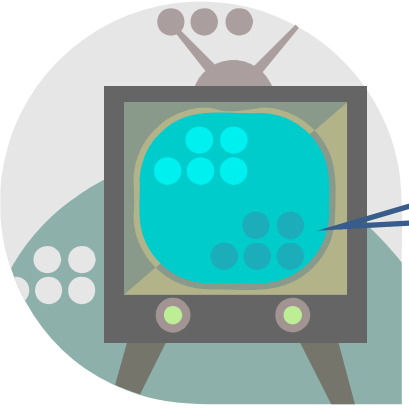
先物取引の契約が成立

コメ農家Aさん

※　実際には、取引所では同時に大量の取引が行われており、お互い誰と取引が成立したのかは分かりません。

その後
～　収穫時期が到来　～

10月



○　コメの価格は下落し、10月現在、12，000円／60kgです。

○　コメの価格は豊作で随分さがったな。

○　でも、先物市場で、予定どおり、15，000円／60kgで売れたから、来年もコメが生産できるぞ。

コメ農家Aさん

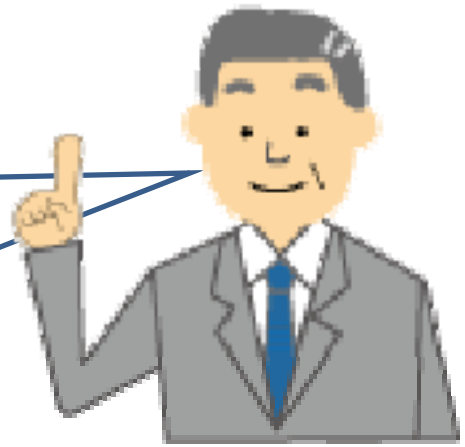
作況などにかかわらず、**当初予定した収入（15，000円）を確保**できました。

でも、実際の取引現場では、
こんなケースはありませんか？

10月

いつも買っているコメを売ってください。

値段は今の相場の12，000円／60kgでお願いします。



いつも取引している卸売業者さん

コメ農家Aさん

12，000円／60kgじゃ、当初の予定より3，000円も収入が減っちゃうな。

しかし、今の相場がそうだし、今後の付き合いもあるから仕方ないな。

3，000円の収入減

このようなとき、

先物契約で、損金を回収出来ます。

10月

分かりました。

４月の先物契約を解除しましょう。

４月に結んだ先物契約をキャンセルします。

先物取引を解消できた。

コメ農家Aさん

この時、Aさんが今の現物相場（12，000円／60kg）でコメを調達し、それを先物市場で引き渡せば、

（売渡しの価格）　　（調達の価格）

15，000円 － 12，000円 ＝ 3，000円

3，000円の利益が発生

実は先物取引では、

取引をキャンセルして、

このような利益（3，000円）
も受け取ることができます。

具体的なキャンセルの方法は、次の通りです。

① コメを売る契約をしていた場合は、

→ 逆に買う契約をする

② コメを買う契約をしていた場合は、

→ 逆に売る契約をする

10月

商品取引所

引渡し約束のコメが、12，000円／60kgで取引されてますよ。

先物価格は現物価格に連動します。

契約成立

先物契約のキャンセル申込み

先物取引を解消できた。

3，000円利益が出た

3，000円支払い

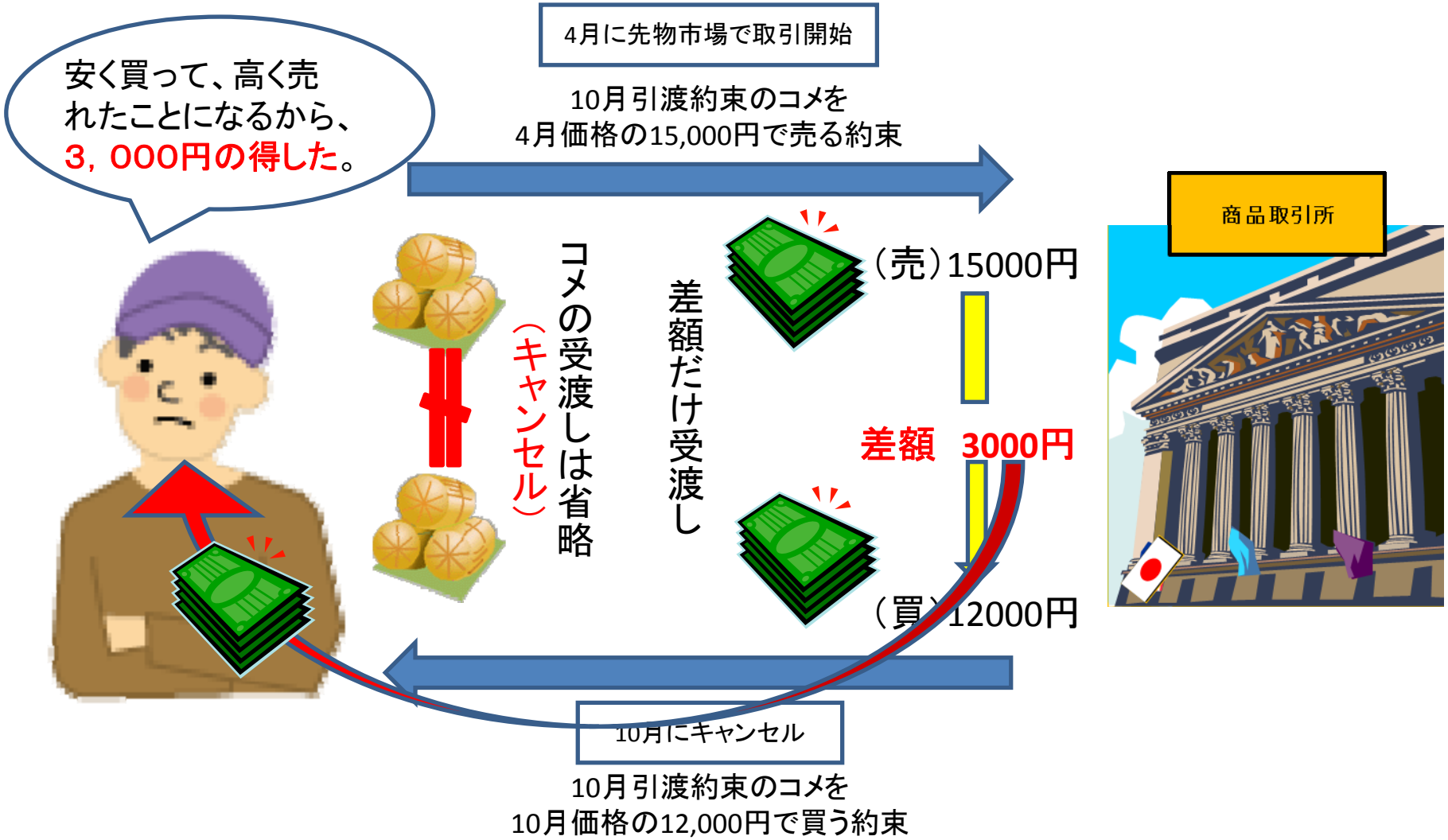
コメ農家Aさん

12，000円／60kgで売ります。（逆の契約申込み）

これを、差額決済（現金決済）※と呼びます。

※　差金決済ともいいます。

（補足）差額決済のイメージ



コメ農家Aさんは、同じ相手（先物市場）と同じモノ（コメ）を違う価格で売り買いしたので、モノの受渡しは省略して差額の受渡しだけを行いました。（結果として売値と買値の差額3,000円が利益になりました）

では、差額決済（現金決済）を使った場合のAさんの収入をみてみましょう。

【現物市場での取引】 ～　付き合いのある卸に売った分　～

コメ農家Aさん

12，000円／60kgの収入

長年付き合いある卸売業者さん

＋

【取引所での取引】

コメ農家Aさん

3，000円／60kgの収入

作況などにかかわらず、**当初予定した収入（15，000円/60kg）を確保**できました。

結果的に、コメ農家Aさんは、

１　実際に取引所でコメを引き渡しても（現物決済）
２　差額決済（現金決済）を使っても

同じように当初予定した収入（15，000円）を、確保することができました。

このように、先物取引を活用すると

１　実際に取引所でコメを引き渡しても（現物決済）

２　差額決済（現金決済）を使っても

同じように、当初予定した収入を、確保することができます。

実際の取引現場では、

生産者の皆さんも、農協の皆さんも、それぞれ、独自の決まった取引先があるはずです。

このようなとき、差額決済（現金決済）はとても便利です。

なぜなら、各々従来の取引先との取引を続けながら、先物取引を活用し利益を確保することが出来るからです。

このため、先物取引では、

一般的に、差額決済（現金決済）という方式が、

取引の大部分を占めています。

先物取引とは（まとめ）

基本的な仕組み

○　半年後や1年後などの未来に、商品を引渡し、または、代金を支払うことを約束する契約です。

○　契約の履行方法は2つあります。

１　実際に商品を引渡し代金を受け取る方法

２　差額決済（現金決済）による方法

○　先物取引を利用することで農家の皆さんは、先に販売価格を決めることができ、これによって、安定した収入を確保（将来の収入を確定）できます。

○　また、現金決済を使えば、従来の取引先との関係を保ちながら、上記のメリットを得ることができます。

差額決済（現金決済）とは（まとめ）

○　先物市場で、商品を売る契約をしている農家さんは、
　→　逆に同じ商品を買う契約をすることで、

○　先物市場で、商品を買う契約をしている卸さんは、
　→　逆に同じ商品を売る契約をすることで、

売り買いの2つの契約を相殺して、商品先物取引の契約を解消できる仕組みです。

この際、利益が出ていれば、その利益を取引所を通じて受け取れます。（損が出ていれば支払います。）

Qタイム　先物取引で損しないの？

１　これまで説明してきたように、現物を扱う生産者や卸売業者の皆さんが、将来の販売価格や仕入価格を、予め決めておくために先物取引を利用する場合、確実にその価格で商品を販売したり、購入したり出来ますので損をすることはありません。

２　ただ、たまたま、不作などで、秋に現物の相場が高騰したりすると、もっと高く売れたのにと考えることはあると思います。

３　しかし、秋になって現物の相場がどうなるかは、前もって知ることはできません。逆に豊作になって価格が下落するリスクもあるのです。でも、先物取引は、このようなリスクを平準化し、農業経営の安定をもたらす便利な道具の１つと考えてください。

Qタイム　差額決済（現金決済）はいつでもできるの

１　いつでもできます。
　具体的には、先物取引の契約を結んだ日から、実際に商品を引き渡す期限の日までの間であれば、差額決済（現金決済）は行うことができます。

２　しかし、差額決済（現金決済）を行うためには、逆の契約（売りであれば、買いの契約）を、取引所で結ぶ必要があります。ただ、引渡期限直前になると、予定した価格で、契約を結んでくれる相手がうまく現れない可能性もあります。

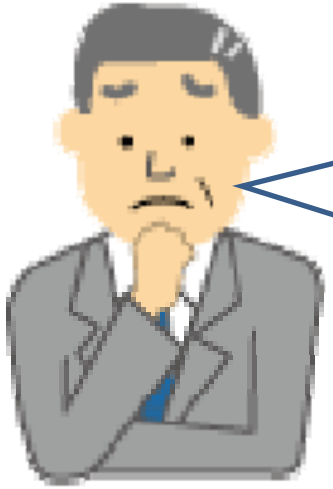
３　このため、差額決済（現金決済）を行う場合は、ある程度、余裕をもった対応が必要です。また、農家さんの場合、通常は、現物が売れた時期に、差額決済（現金決済）を行えば、先物取引の機能であるリスクの平準化が最も働きます。

便利な使い方の例

①　播種前契約での使い方

あらかじめ、コメの販売価格や、販売先が決まってたら、安心して、コメ作りができるんだけどな。

コメ農家さん



卸売業者さん

ちゃんと、出来秋に、いいコメを確保できるようにしておきたいな。

そんなとき

播種（収穫）前契約

がとても便利です。

しかし、

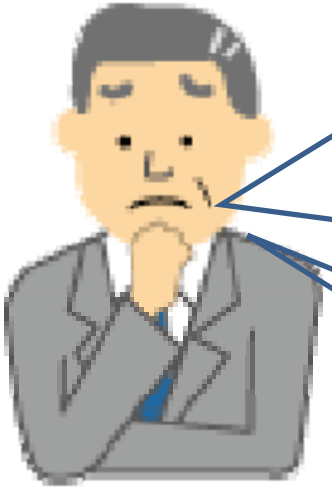
実際に契約しようとすると

生産費やマージンを考えたら、作ったコメは、
15，000円／60kg以上で買って欲しいな。

コメ農家さん

15，000円／60kgで買ったら、輸送コストや儲け等のマージンを含めて、小売さんに
16，000円／60kgで売らなきゃいけないな。

でも、豊作になったら、もっと安く売らないといけないから損しちゃうかも。



卸売業者さん

もっと、安く売ってよ。

収穫時のコメ価格が分からないので、

なかなか、契約価格が決められません。

そんなときに、

先物取引が使えます。

今なら、10月（収穫時）に引渡し約束のコメが、16，000円／60kgくらいで取引されていますよ。

※　消費地倉庫で渡す値段です。

16,000円／60kgで売りの契約

そうだ、あらかじめ、取引所で、16，000円／60kgで売る約束しておけば、農家から、15，000円／60kgで買う約束をしても、確実に1，000円のマージンが取れるな。

よし、まず、先物で売る約束をして、農家さんと播種前契約しよう。

卸売業者さん

卸さんは、買おうとするコメのマージンが固定できたので、安心して、生産者との播種米契約が結べるようになりました。

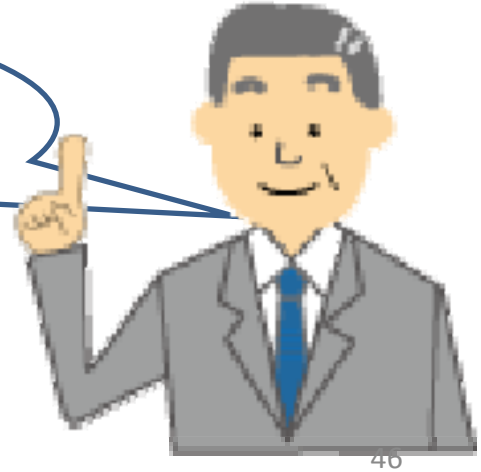
～　播種前（収穫）契約　～

コメ農家さん

15，000円／60kgで売ります。

播種前契約の締結

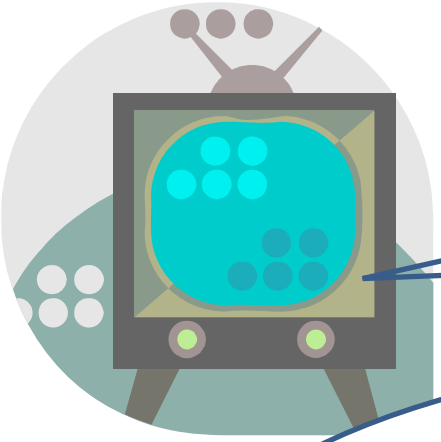
15，000円／60kgで買います。



卸売業者さん

その後
～　収穫時期が到来　～

コメ農家さんの場合



コメの価格は下落し、10月現在
12，000円／60kgです。

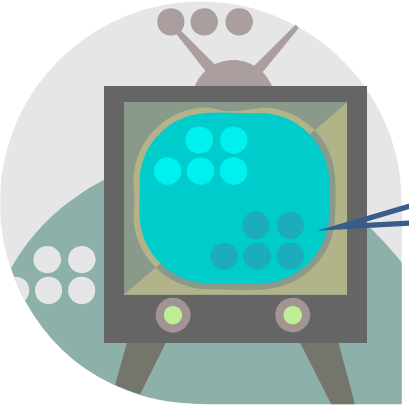
コメの価格は豊作で随分さがったな。

でも、播種米契約を結んでいたから、
確実に15，000円／60kgで売れるな。これで、来年もコメの生産ができるぞ。

コメ農家さん

作況などにかかわらず、**当初予定した収入（15，000円）を確保**できました。

卸売業者さんの場合　～ 現物引渡　～

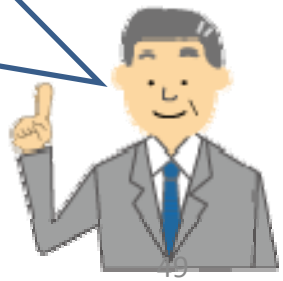


○　コメの価格が下落し、10月現在、12，000円／60kgです。

○　コメの価格は豊作で随分さがったな。

○　でも、先物市場で、予定どおり、16，000円／60kgで売れたから、1，000円／60kgのマージンはちゃんと確保できたぞ。

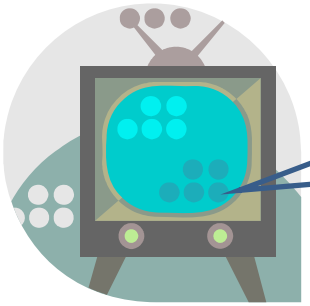
○　これで商売が続けられるぞ。



卸売業者さん

先物市場で16，000円で販売　－　農家から15，000円で仕入れ　＝1，000円
◇　1，000円のマージンを確保
作況などにかかわらず、**当初予定した収入を確保**できました。

卸売業者さんの場合　～ 差額決済（現金決済）　～



○　コメの価格は下落し、10月現在、12，000円／60kgです。

○　今、10月に引渡約束のコメは、12，000円／60kgで取引されています。

先物価格は現物価格に連動します。

○　コメの価格は随分さがったな。農林コメ店に売る約束をしたから、現物相場のあわせて12，000円／60kgで売らなくちゃ。

○　そういや、自分は、前に、取引所で16，000円／60kgで売る約束していたな。現物は農林コメ店に売るから、反対に買いの注文をして、先物取引契約を解消しなくちゃ(差額決済(現金決済))。

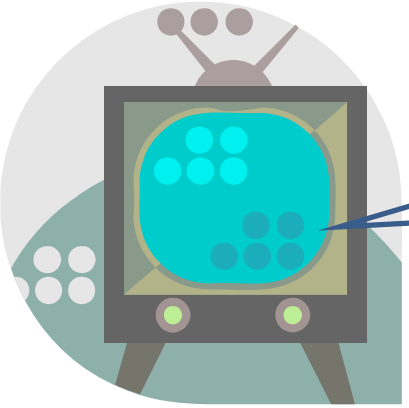
○　高く売る約束のコメ（16,000円）を、安く買った（12,000円）から取引所から、利益4，000円／60kg貰えたぞ。

卸売業者さん

現物の販売額12，000円　＋　先物の儲け4，000円　＝16，000円
◇　15，000円で買ったコメなので1，000円のマージンを確保
作況などにかかわらず、**当初予定した収入を確保**できました。

もし、先物取引を利用していなかったら、卸売業者さんの収入はどうなっていたでしょう？

卸売業者さんの場合　～ 先物取引を利用しない　～

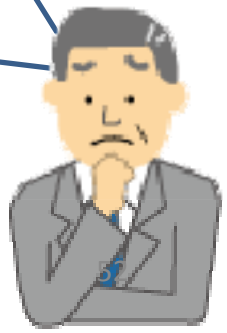


○　コメの価格は下落し、10月現在、12，000円／60kgです。

○　コメの価格は豊作で随分さがったな。

○　農林商事に、今の相場にあわせて、12，000円／60kgで売ろう。

○　農家さんから、15，000円／60kgで買ったコメを12，000円／60kgで売ったから、3，000円（マージンも含めると4，000円）の赤字だな。



作況により**当初予定より4，000円収入が減少**しました。

また、先物取引は、

買取集荷を行うときも使えます。

買取集荷を行う場合

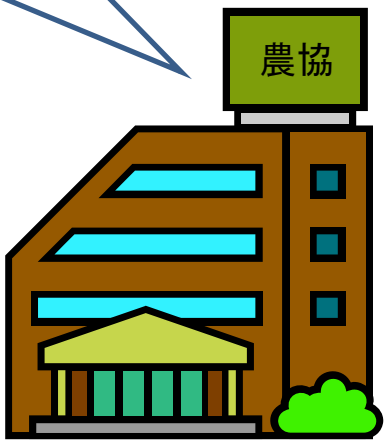
買取集荷を行うことで、農協側には、買ったコメについて、

○　売り先が見つかるかどうかのリスク
○　卸売業者にいくらで売れるか分からないリスク

などの様々なリスクが発生します。

コメ農家Aさん

買取集荷
15，000円／60kg



農林農協

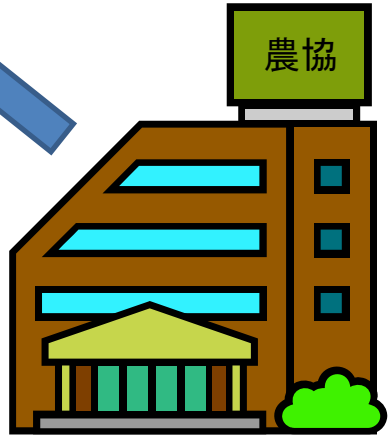
～　先物取引を使うと　～

16,000円－15,000円
＝1,000円／60kgの
マージンが確定

売り契約
16，000円／60kg

コメ農家Aさん

買取集荷
15，000円／60kg



農林農協

○　売り先が見つからなくても、先物市場で確実に売り渡せます。
○　コメ価格がどんなに下がっても当初予定の収入を確保できます。

③　在庫縮減するための使い方

卸売業者さんなどが、コメの取引を行っていく場合、

一定量の在庫を持つことが必要です。

しかし、在庫には次のようなリスクやコストが伴います。

リスク

- ○　販売までの間の価格変動リスク
- ○　売れ残りのリスク
- ○　保管時の品質劣化、毀損等のリスク

等

コスト

- ○　保管に係るコスト
- ○　現物調達に伴う資金調達　等

このようなリスクやコストを軽減するために、

先物取引が役立ちます。

～　実際の利用例　～

卸売業者さん

16,000円／60kgで買いの契約

実際の在庫量

実際に農家さんから現物購入

（単価：15，000円／60kg）

先物取引で買いの契約

販売予定量（契約済）

このように在庫の一部を先物取引で確保することにより、以下のようなメリットが生じます。

商品先物契約で調達した部分については、

○　保管時の品質劣化、毀損等のリスクが発生しない。

○　保管に係る経費や事務負担等が発生しない。

○　現物購入では必要となる購入資金の調達負担が発生しない。　等

さらに、在庫の一部を、現物でも先物契約でも調達しなかった場合に生ずるリスクも回避できます。

在庫を持たないと生ずるリスク

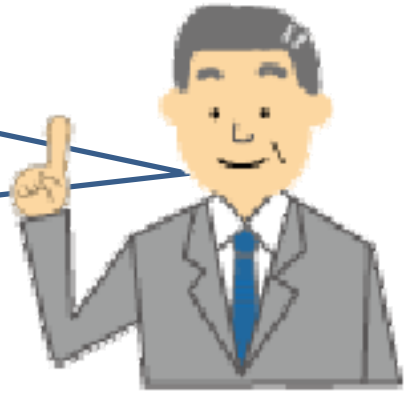
○　仕入価格の変動リスク。

○　小売等への販売時に現物が調達できないことで発生する違約金支払い等のリスク

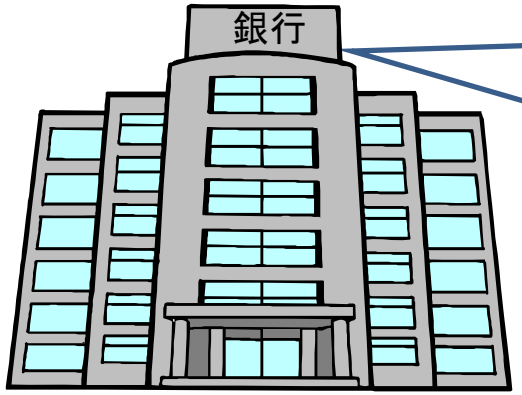
等

③　銀行から融資を受ける場合の担保としての使い方

会社の運転資金が必要なので、在庫のコメを担保に融資をお願いします。



卸売業者さん



農林銀行

在庫のコメはいくらで売れるのか分からないので担保にはなりません。

何か別の担保を用意してください。

銀行から、融資を受ける場合、コメを担保にしようとしても、販売価格が固定していないため、なかなか担保として認めてもらえません。

また、仮に担保になっても、担保価値は相当低く見積もられる可能性があります。

そんなときに、

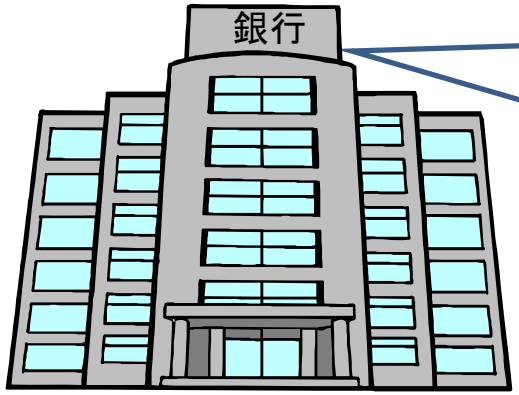
先物取引が役立ちます。

16,000円／60kgで売りの契約

卸売業者さん

在庫のコメは、すべて先物市場で、
16，000円／kgで売る契約をしています。

だから、確実にその値段で売れますよ。



農林銀行

それなら安心です。

では、在庫のコメを担保に融資しましょう。

先物契約によって、

担保価値を算定しにくいコメが

担保として活用できました。

その他のメリット

先物取引の利用例をいくつかみてきましたが、その他にも、先物取引には以下のようなメリットがあります。

その1

○　たくさんの人が取引に参加し、毎日、取引が行われ、かつ、その結果が即時公表されるため、透明かつ公正な価格情報が提供されます。

実際に先物取引に参加しなくても、取引にあたって役立つ価格情報が入手できます。

その2

○　収穫時等の未来の価格が示されているため、その価格を判断材料に、戦略的な農業経営を行うことができます。

将来のコメの価格が高ければ生産可能数量コメを生産し、安ければ、一部を別の作物に転換する等の経営判断が可能です。（結果的にコメの需給均衡にも貢献します。）

まとめ

～　まとめ　～

コメ先物市場のメリットを簡単にまとめると以下のようなものになります。

コメ先物市場の５つのメリット

１　透明かつ公正な価格情報をタイムリーに提供できます。

２　作況等による価格変動のリスクの保険手段を提供できます。

３　先物市場の保険や現物受渡し機能を活用すれば、在庫を縮減できます。

４　先物価格や保険機能を活用すれば、播種（収穫）前契約を進め安くなり、計画的安定的な生産・販売体制を確立できます。

５　先物市場で将来の価格が決まれば、在庫価値の評価が可能となり、在庫を担保とした資金調達が可能となります。